

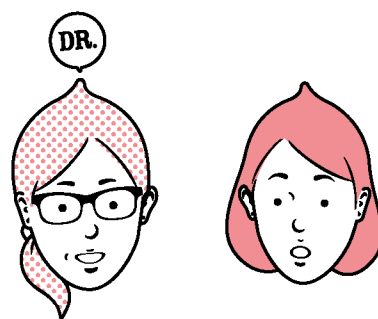
子宮頸がん検診ではどのような検査をするのですか？

1



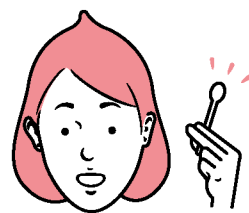
問診：初潮の年齢や生理の様子、妊娠・出産歴、自覚症状の有無などを問診票に記入。さらに、診察室で医師からの質問に答えます。

2



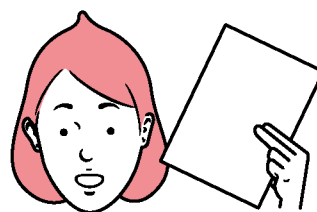
視診(内診)：内診台にて、医師による診察を受けます。子宮頸部の状態を目で確認し(視診)、子宮全体と卵巣・卵管などを触診で調べます(内診)。

3



細胞診：ヘラやブラシのようなものを膣内に挿入し、子宮頸部の粘膜を軽くなでるようにして細胞を採取します。この時、少し出血する可能性はありますが、痛みなどを感じることは少ないです。

4



検査終了：診察時間は、10～20分です。約2～4週間で、細胞診の結果も含めた検査結果がわかります。

子宮頸がんの原因について

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの持続的な感染が原因となって発症します。HPVの子宮頸部への感染はほとんどが性交渉によりますが、このウイルスに感染すること自体は決して特別なことではなく、誰でも感染する可能性があります。HPVに感染しても、ほとんどの場合は自然に排除されますが、ウイルスが排除されずに長期間感染が続く場合があります、ごく一部のケースで数年～数十年間かけて、子宮頸がんを発症します。子宮頸がんの原因であるHPVの感染を予防するワクチンも開発されており、欧米をはじめとする世界100ヶ国以上で発売されています。日本でも2009年12月から接種が開始されました。また、2010年11月からは原則として中学生と高校1年生を対象にワクチン接種の公費補助も開始されています。ワクチンの予防効果は60～70%と考えられており、すべての発がん性HPVの感染を予防できるわけではありません。**ワクチンを接種しても20歳を過ぎたら2年に1度は子宮頸がん検診を受けましょう。**子宮頸がんは長期間かけて発症する病気であり、早期に発見すればがんといってもほぼ治癒します。検診とワクチン接種で、子宮頸がんからあなたの体を守りましょう。